

# 横浜市道路整備プログラム

2019 - 2028

【2019(平成31)年3月策定】

【2024(令和6)年3月改定】



## 目次

---

### 0 はじめに …1

### 1 計画の位置づけ …4

### 2 計画期間 …4

### 3 基本方針 …5

### 4 施策分野 …6

#### <重点施策:個別補助対象事業>

- A 広域的なアクセス性の強化 …7
- B 鉄道立体による地域間交流の円滑化と踏切道改良計画事業 …9
- C 個別施設計画に基づく道路メンテナンス事業 …10
- D 無電柱化推進計画支援事業 …10

#### <施策分野:交付金整備計画対象事業>

- 1 体系的な道路ネットワークの形成 …12
- 2 駅等へのアクセス向上 …14
- 3 安全・安心なみちづくり …16

#### <直轄国道>

- 国 国道の整備による交通環境の改善 …21

---

(表紙の写真)

- 1 地域高規格道路の整備(横浜環状北西線)
- 2 連続立体交差事業(相模鉄道本線)
- 3 都市計画道路の整備(岸谷生麦線)
- 4 無電柱化推進事業
- 5 橋梁点検(近接目視)
- 6 道路空間の再配分(日本大通り)
- 7 通学路の安全対策
- 8 自転車通行空間の整備(みなとみらい地区)



## 0 はじめに

### (1) 本計画策定の趣旨

道路は、産業・経済活動、安全・安心な生活を支える重要な都市基盤です。

昨今の厳しい財政状況下において、今後も道路の整備・機能強化に計画的に取り組んでいくため、「道路整備事業に係る国の財政上の特別措置に関する法律」による国費率のかさ上げ措置が継続されることとなりました（平成30年度から10年間）。

本市においても、これまで様々な施策・事業に取り組んできた結果、市内の各所で発生していた大渋滞は軽減され、極めて不経済で利便性の低かった道路網は一定の改善が図られてはいるものの、都市計画道路の整備率を見ると、他の大都市と比較して依然として低い水準にあり、我が国トップクラスの交通量に対する一般道路網の整備は不十分な状態であると言えます。

また、人口減少、超高齢化、自然災害の激甚化、インフラの老朽化という困難な課題が急速に顕在化してくるなど、道路をとりまく環境は劇的に変化しています。

本計画は、上記の状況を踏まえ、計画的かつ効率的に道路整備に取り組むため、国からの通知に基づいて策定する「道路整備プログラム」に該当するものです。

### (2) 道路の役割

道路は、人流や物流はもとより、災害時の救命・救急活動など様々な活動によって生じる車両交通を円滑に処理するとともに、火災時の延焼遮断帯としての機能を有しています。

また、その下には生活に必要なライフラインを通して、過密な都市における重要な収容空間としても役立っています。

さらに、近年では、人とクルマの関係を見直すことなどにより、道路空間を活用した新たな賑わいづくりに取り組むことが大きなトレンドとなっています。



◆ 輸送で活躍  
人やものを運ぶとともに、消防車や救急車などの緊急車両が通る役割



◆ 防災  
火事の際、火が燃え広がらないよう遮断する役割

◆ ライフラインの収納空間  
生活に必要な電気、ガス、水道、下水、電話線などが道路の下に



◆ 憩い・にぎわい空間  
歩行空間や、オープンカフェなど、都市生活に潤いを与える空間



### (3) 本市の特性

横浜のまちは、開港以来、港を中心に発展してきました。

そのため、港のある都心部から、東京や周辺地域に向かう放射状の道路は比較的早期から発達してきましたが、環状方向の道路を中心に本市の道路整備は不十分な状況となっています。

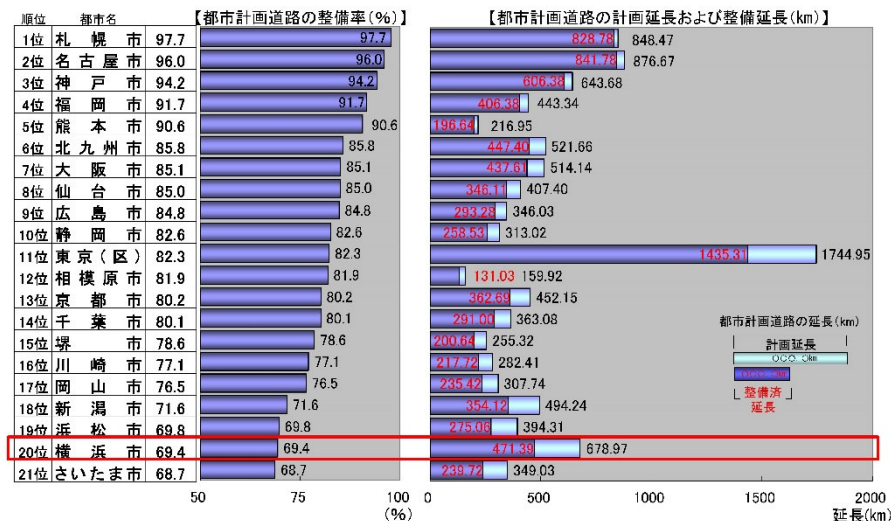
道路整備が進まなかった主な理由として、以下の要因が挙げられます。

- ① 震災や戦災により、市街地の大半が繰り返し甚大な被害を受けたこと
- ② 山坂が多い地形であり、道路の整備に多額の事業費がかかること
- ③ 米軍による接収により、都市基盤の整備が遅れたこと
- ④ 高度成長期の人口の急増に対応するため、学校などの施設整備を優先したこと

令和4年度都市計画年報によると、他の大都市と比較して都市計画道路の整備は低水準にあり、また、令和3年度に行われた「全国道路・街路交通情勢調査（道路交通センサス）」では、本市の道路交通状況の課題を浮かび上がらせる結果となっています。

【21大都市の都市計画道路の整備率・順位および延長】

(令和4年3月31日現在)



出典：令和4年都市計画年報

(自動車専用道路、モノレール等を除く)

※ 21大都市：20政令市および東京都区部

表.1 都市計画道路の整備状況

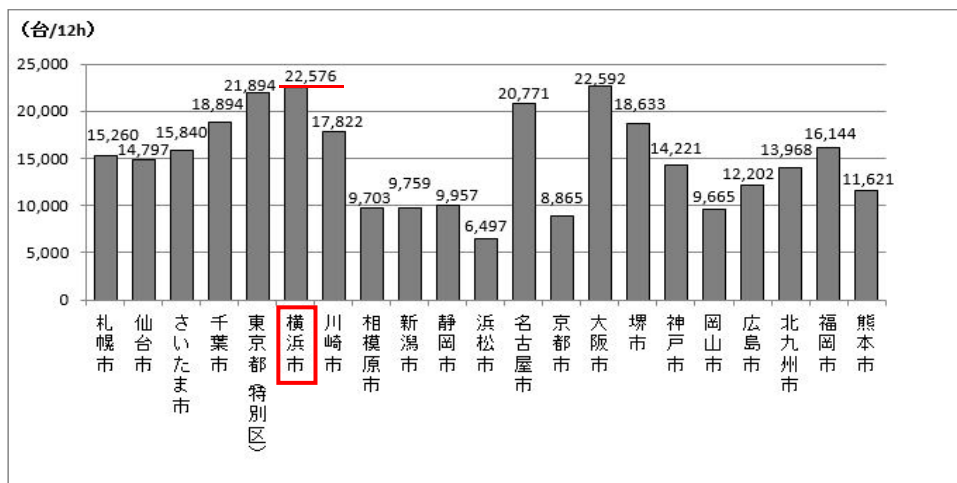


表.2 平日12時間平均交通量

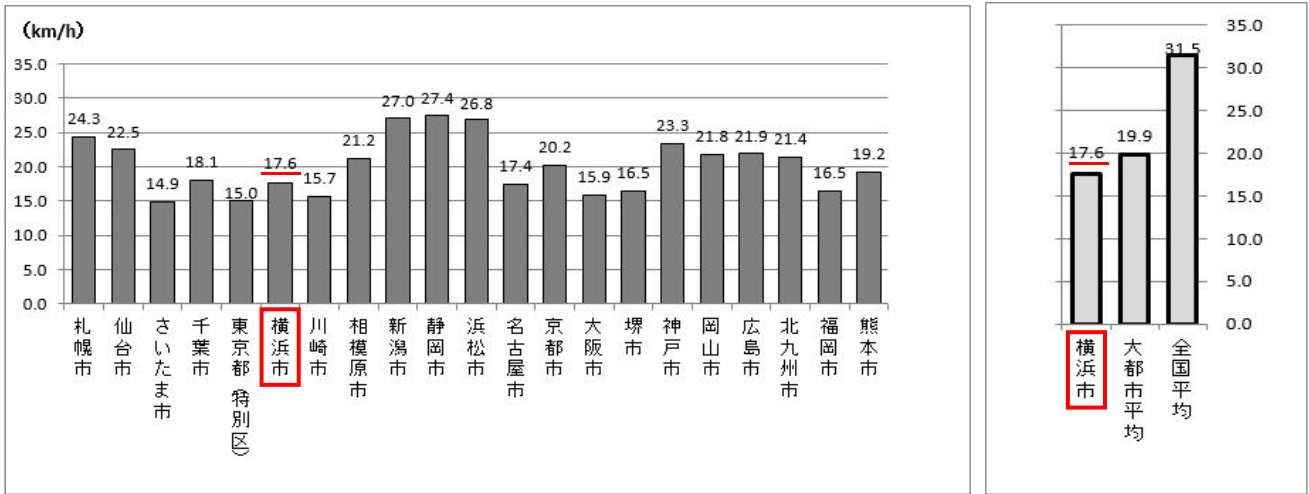


表.3 混雑時平均旅行速度 (平日)

一方、震災・戦災を経て急速に整備されてきた市内の道路構造物は、急速に老朽化が進展してきており、これら膨大な既存インフラストックに対する将来的なメンテナンスは、財政面・安全面にとっては脅威となりかねない状況となっています。

構造物毎に保全・更新計画を策定し、計画的な維持管理・修繕を目指して取り組んでいるものの、厳しい財政状況に反して、管理すべき構造物は増え続けています。

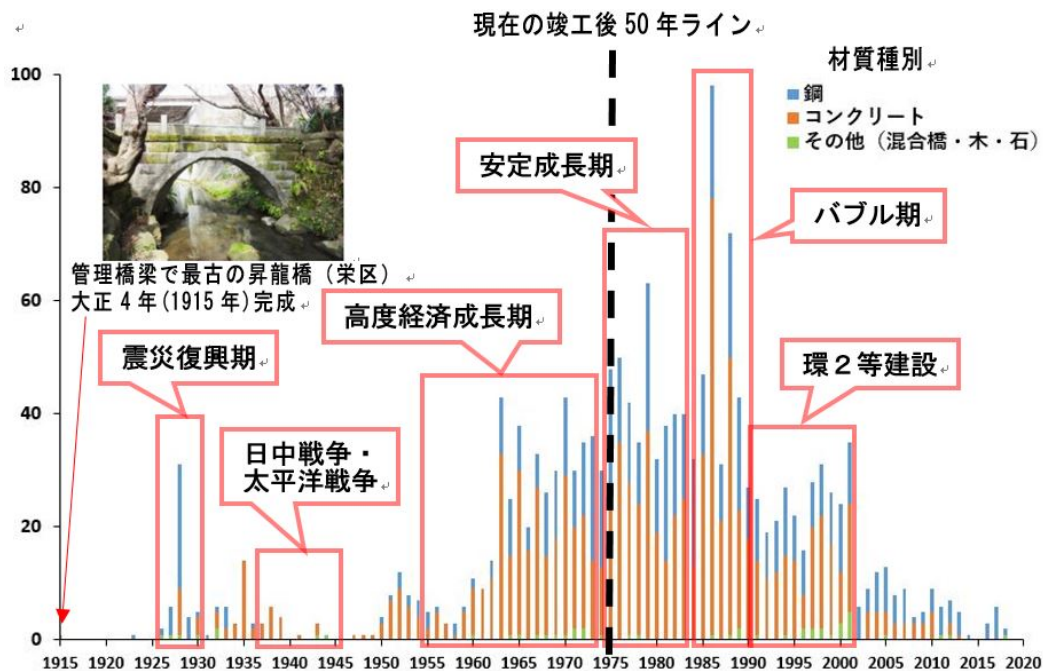


表.4 橋梁の材質種別別の整備時期

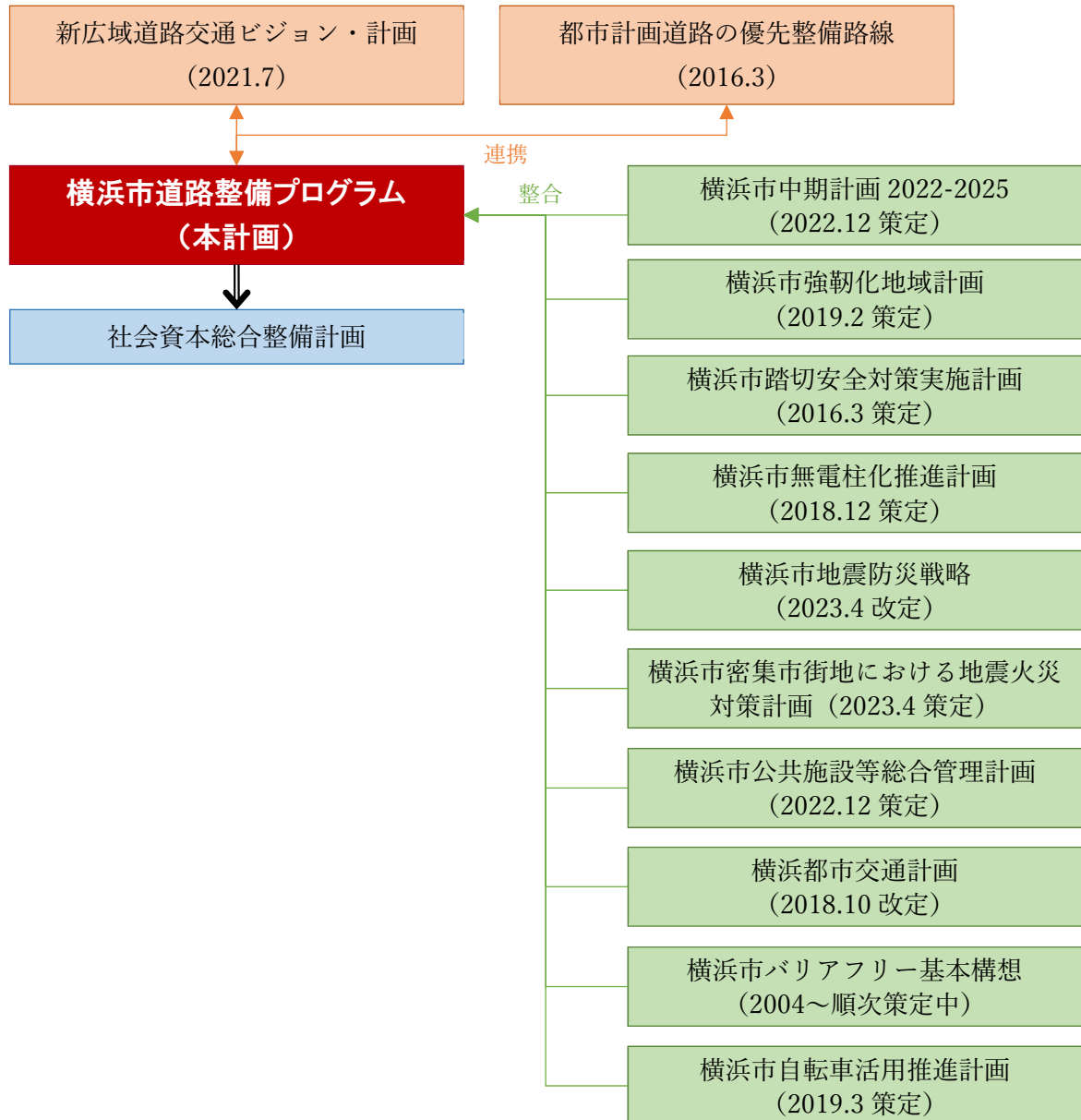
(全国道路・街路交通情勢調査 一般交通量調査とは?)

交通量や旅行速度といった道路交通状況や、車線数、幅員、歩道の有無等といった道路状況を把握する全国規模の調査です。現状を把握することにより、将来における道路計画の策定や道路の維持修繕に活用します。

昭和3年度に全国交通調査としてはじまり、昭和55年度以降は概ね5年ごとに全国的に実施しています。直近では、令和3年秋季に国土交通省、都道府県、政令指定都市や高速道路株式会社等が連携して実施しました。

## 1 計画の位置づけ

本計画は、本市における産業・経済活動の活性化、市民生活における安全・安心の確保に資する道路の整備、維持管理の施策・事業をとりまとめた計画であることから、関連する計画と適切に連携するとともに、個別計画との整合を図りながら取り組んでいくこととします。



## 2 計画期間

本計画は、2019年度からの2028年度までの10年間を計画期間とします。

社会経済状況の変化に対応するとともに、他の関連する計画等の見直しとも適切に連携を図る必要があることから、計画期間を前期5年、後期5年に分け、中間的に見直しを行います。

ただし、目標に対する効果の発現状況や関係する制度等の変更等に応じて、見直しの時期を柔軟に変更できることとします。

### 3 基本方針

都市横浜が、今後も更に発展し、飛躍していくために、市民生活や横浜経済を支える強靱な都市基盤を構築するとともに、安全・安心で愛されるみちづくり、災害に強いまちづくりを実現すべく、「横浜の持続的な成長・発展を支える都市基盤の整備」「市民生活の安全・安心の確保」「魅力あるまち・みちづくり」の3つを基本方針として、施策・事業を進めていきます。

#### 市民生活と経済活動を支える都市づくり

#### 基本方針

##### I 横浜の持続的な成長・発展を支える都市基盤の整備

横浜環状道路の早期整備を実現することで、高速道路ネットワークを充実させ、横浜港の国際競争力の強化をはじめとする広域的なアクセス性の強化、災害時のリダンダンシー（多重性）の確保、幹線道路における渋滞の緩和などを図ります。加えて、都市計画道路等の整備、「開かずの踏切」の解消に向けた連続立体交差事業を推進することで、主要渋滞箇所の削減をめざし、横浜経済の活性化や市民生活の利便性・安全性向上を図ります。

##### II 市民生活の安全・安心の確保

激甚化する自然災害や切迫する巨大地震による被害を最小限に抑えるため、無電柱化推進事業等、ハード・ソフト両面から防災・減災対策を着実に進めます。

通学路における子どもの交通事故死ゼロを目指し、ビッグデータや事故データ等を活用・分析した予防保全型の交通安全対策を推進するなど、子どもから高齢者まで誰もが安全に利用できる道路空間を実現します。

また、老朽化する施設が増加する中であっても、点検結果を踏まえた計画的な保全・更新により、効率的かつ効果的な維持管理を行い、将来にわたる安全性の確保を図ります。

##### III 魅力あるまち・みちづくり

市内広域での自転車通行空間の整備を推進するとともに、バリアフリー歩行空間の整備など、移動環境の充実を図ります。

出典：令和6年度横浜市道路局予算概要より



## 4 施策分野

基本方針に基づいて様々な事業を展開していくため、4つの重点的施策と3つの施策分野に各事業を分類します。それぞれの分野に対しては、成果を客観的に把握できる指標を設定し、進捗管理しながら取り組んでいくこととします。

各分野の詳細は、次ページ以降で詳述します。

重点施策 (個別補助対象事業)	基本方針			成果目標を把握するための指標
	I	II	III	
A 広域的なアクセス性の強化	●	●		横浜港から東名高速道路までの所要時間(分)
B 鉄道立体による地域間交流の円滑化と踏切道改良計画事業	●	●	●	開かずの踏切の解消(箇所)
C 個別施設計画に基づく道路メンテナンス事業		●		補修着手すべき橋梁の着手率(%)
D 無電柱化推進計画支援事業		●	●	第1次緊急輸送路の無電柱化事業着手率(%)

施策分野 (交付金整備計画対象事業)	基本方針			成果目標を把握するための指標
	I	II	III	
1 体系的な道路ネットワークの形成	●	●	●	都市の骨格となる都市計画道路の整備率(%)
2 駅等へのアクセス向上	●			川崎市境から新横浜駅への所要時間
3 安全・安心なみちづくり		●	●	市内の交通事故における年間死者数(人)

また、市域内の直轄国道についても、首都圏中央連絡自動車道(国道468号)の一部を形成する横浜環状南線、横浜湘南道路の整備を進めるとともに、各直轄国道における渋滞交差点の解消や電線共同溝の整備等について、国道事務所と連携して取り組んでいきます。

なお、上記施策分野は、別途定めている「社会資本総合整備計画」と考え方を同じくするものであり、本計画の見直し等の際には、「社会資本総合整備計画」についても併せて検証することとします。

何らかの事情により「社会資本総合整備計画」の再考が生じた場合には、本計画も同様とします。



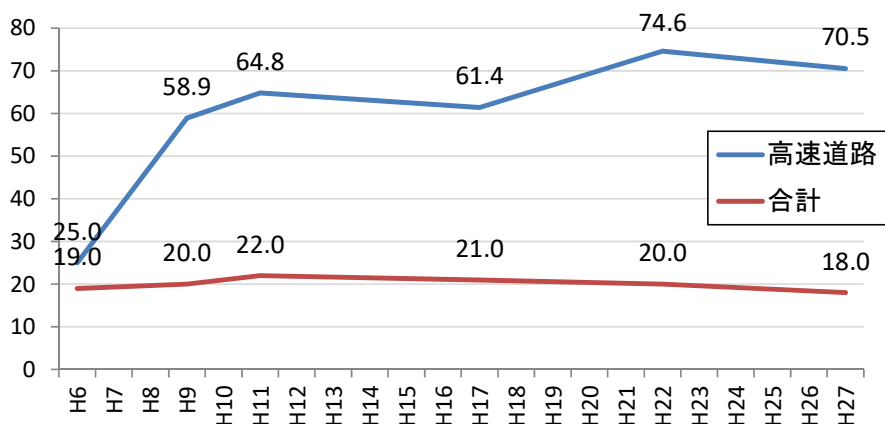
## A 広域的なアクセス性の強化

### (1) 現状・課題

通過交通の集中により混雑していた都心部の交通環境は、ベイブリッジや首都高湾岸線などの開通により、大幅に改善しました。また、横浜新道の6車線化や東名青葉ICの開設等、高速道路網の利便性も向上しています。

その結果、高速道における旅行速度は平成6年の25km/hから17年には61km/hとなり、市域内の高速道路ネットワークは大きく改善されています。

さらに、横浜環状道路（北線・北西線・南線）も整備が進み、横浜北線は平成29年3月、横浜北西線は令和2年3月に供用を開始しています。空港や港湾アクセスの改善や本牧・大黒埠頭の連携強化など、本市経済の活性化に大きく貢献しています。



横浜市における混雑時旅行速度の推移 [DID] (高速道路)

### (2) 取組の方向性

横浜環状北西線の整備による広域的なネットワークの構築に加え、高速道路・自動車専用道路網のインターチェンジ及び横浜港へのアクセス道路を整備することにより、市内道路網から広域ネットワークへ円滑な移動を実現します。

### (3) 成果目標

横浜港から東名高速道路までの所要時間を短縮させます (分)



#### (4) 事業

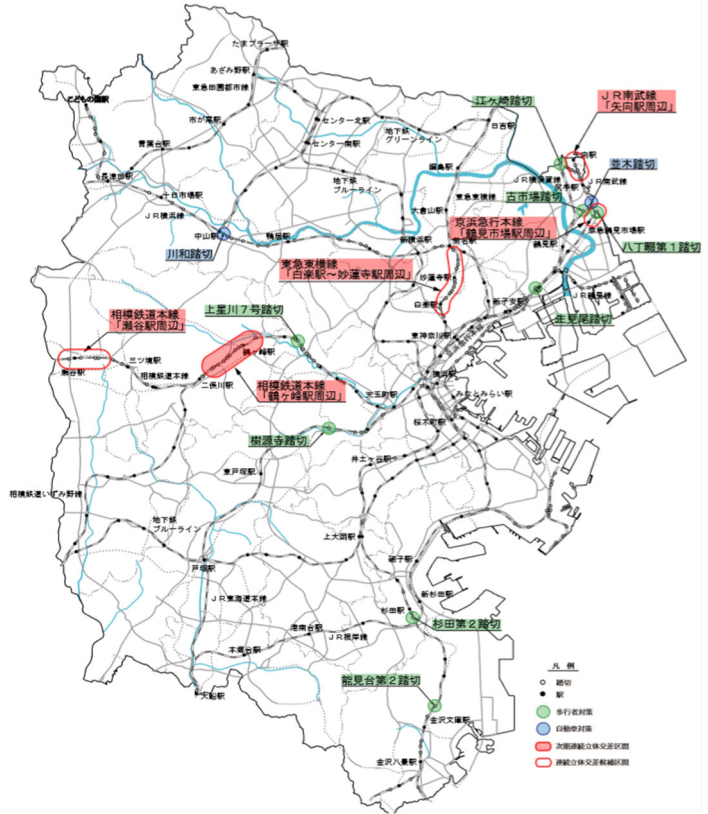
事業箇所	事業内容	事業実施期間	
		前期	後期
		R1~R5	R6~R10
(都)上郷公田線	バイパス 3.2km	■	■
(都)田谷線	バイパス 0.7km	■	■
(都)横浜藤沢線 (田谷小雀地区)	バイパス 1.4km	■	■
(都)環状3号線	バイパス 2.0 km	■	■
(都)横浜高速環状北西線	バイパス 7.1km	完了	
一般国道1号 (保土ヶ谷橋工区)	現道拡幅	■	■
(市)五貫目第33号線 (上川井・上瀬谷地区)	現道拡幅	■	■

## B 鉄道立体による地域間交流の円滑化と踏切道改良計画事業

### (1) 現状・課題

連続立体交差化事業等、踏切の安全対策を進めた結果、市内の踏切は徐々に減少しているものの、依然として 158 箇所の踏切が残されており、交通円滑化のボトルネックとなっています。

本市では、平成 28 年 3 月に「踏切安全対策実施計画」を策定し、抽出した要対策箇所について対策の方向性などを定めており、連続立体交差事業については、相模鉄道本線「鶴ヶ峰駅周辺」を最も優先的に事業化の検討を進める区間としています。

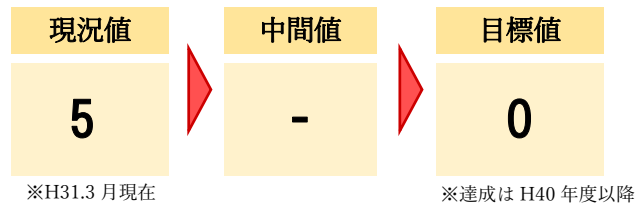


### (2) 取組の方向性

「踏切安全対策実施計画」に基づき、連続立体化事業や拡幅工事等の踏切対策に取り組みます。

### (3) 成果目標

鶴ヶ峰駅付近の開かずの踏切を解消（箇所）



### (4) 事業

事業箇所	事業内容	事業実施期間	
		前期	後期
		R1~R5	R6~R10
相模鉄道本線（星川駅～天王町駅）連続立体交差事業	連続立体交差事業	完了	
相模鉄道本線（鶴ヶ峰駅付近）連続立体交差事業	連続立体交差事業	■	■
(市) 仏向町第 292 号線（樹源寺踏切道）	歩行者等立体横断施設	■	■
(市) 市場第 200 号線（八丁畷第 1 踏切道）	カラー舗装、歩道拡幅	完了	
(市) 菊名六角橋線（菊名 3 号踏切道）	カラー舗装	完了	
(市) 朝比奈第 534 号線（金沢八景（逗）第 2 踏切道）	歩道拡幅	■	■

## C 個別施設計画に基づく道路メンテナンス事業

### (1) 現状・課題

横浜市が保有している道路施設は膨大な量に及び、その修繕や改修、更新に係る今後の財政需要の平準化などが課題となっています。このような課題に対応するため、施設毎の保全・更新計画を策定し、施設の安全確保や長寿命化、効率的な更新に取り組んでいます。

【横浜市公共施設管理基本方針 保全・更新計画】

<https://www.city.yokohama.lg.jp/city->

[info/zaisei/kokyo/minna/kanrikihonhoushin/hozenkoushin/hozenkoushinkeikaku.html](https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/zaisei/kokyo/minna/kanrikihonhoushin/hozenkoushin/hozenkoushinkeikaku.html)

### (2) 取組の方向性

市内の道路構造物は、急速に老朽化が進展してきていることを踏まえ、計画的な維持管理・修繕に取り組んでいきます。老朽化する道路構造物が加速的に増加する中でも、激甚化する自然災害や切迫する巨大地震による被害を最小限に抑えるため、構造物毎に保全・更新計画を策定し、計画的な保全・更新、防災・減災対策を着実に進めます。

### (3) 成果目標

橋梁長寿命化修繕計画(2018年12月)における補修着手すべき橋梁の着手率(%)



### (4) 事業

実施事業については、各施設の保全・更新計画に基づきます。

## D 無電柱化推進計画支援事業

### (1) 現状・課題

阪神大震災など震災においては、倒壊した電柱や電線により道路の通行が阻害され、生活物資の輸送や緊急車両の通行に支障を与えました。また、電柱や張り巡らされた電線により景観が阻害され、歩道の狭い道路では電柱により歩行空間が阻害されています。こうしたことから、無電柱化は都市の防災力の向上、良好な都市景観形成や観光振興、安全で快適な歩行空間の確保の観点から重要な施策となっています。

また、平成27年10月には、無電柱化のより一層の推進を図ることを目的に、「無電柱化を推進する市区町村長の会」が設立されるなど、無電柱化を推進する社会的気運が高まっています。

こうした無電柱化の必要性や社会的気運の高まりを受け、平成28年12月に「無電柱化の推進に関する法律」が施行、同法に基づく国の「無電柱化推進計画」が平成30年4月に策定されました。





阪神・淡路大震災(平成 7(1995)年 1 月)



台風 14 号(平成 15(2003)年 9 月)

(出典) 国土交通省HP : <http://www.mlit.go.jp/road/road/traffic/chicyuka/>

## (2) 取組の方向性

平成 30 年 12 月に策定した「横浜市無電柱化推進計画」をもとに、首都直下地震や南海トラフ地震などの災害への備えや、国際都市横浜にふさわしい都市空間を形成し多くの観光客に訪れてもらうことを目的として、無電柱化の取組を進めます。

## (3) 成果目標

第一次緊急輸送路等の無電柱化事業着手率 (%)



## (4) 事業

実施事業については、横浜市無電柱化推進計画に基づきます。

# 1 体系的な道路ネットワークの形成

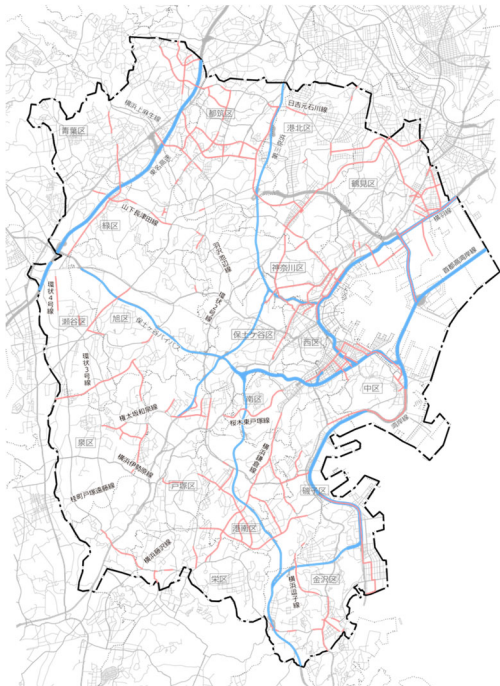
## (1) 現状・課題

3環状10放射道路として位置付けた路線を中心に都市計画道路の整備を進めてきましたが、近年の厳しい財政状況を受け、事業期間が長期化している路線も存在しており、事業費の確保が大きな課題となっています。

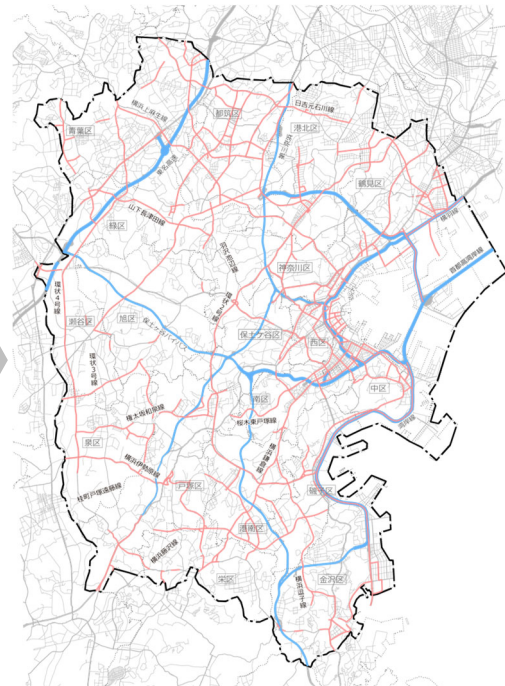
前述の通り、他の大都市と比較しても、整備率は低水準となっていることから、全国でトップクラスの交通需要に対して、未だ旅行速度は低く、混雑度は高い状態です。

主な都市計画道路の整備状況（令和5年3月31日現在）

	路線名	計画延長 (m)	整備済延長 (m)	整備率 (%)
環状線	環状2号線	24,500	24,500	100.0
	環状3号線	28,280	18,420	65.1
	環状4号線	36,550	30,330	83.0
小計		89,330	73,250	82.0
放射線	横浜藤沢線	7,330	1,170	16.0
	羽沢池辺線	5,050	440	8.7
	山下長津田線	19,820	15,340	77.4
	横浜鎌倉線	12,640	12,640	100.0
	桂町戸塚遠藤線	10,240	4,000	39.1
	横浜伊勢原線	5,550	5,550	100.0
	日吉元石川線	11,710	11,710	100.0
	横浜上麻生線	16,080	15,150	94.2
	横浜逗子線	11,320	8,400	74.2
権太坂和泉線	9,580	5,400	56.4	
小計		109,320	79,800	73.0
合計		198,650	153,050	77.0



平成元年時点の都市計画道路網



平成29年度末時点の都市計画道路網

## (2) 取組の方向性

市民生活と産業・経済活動を支える「快適で便利な交通網」の実現を目指し、都市の骨格となる体系的な道路ネットワークの形成を図ります。

## (3) 成果目標

都市の骨格となる都市計画道路の整備率を向上させます (%)



(4) 事業

事業箇所	事業内容	事業実施期間	
		前期	後期
		R1~R5	R6~R10
横浜藤沢線	バイパス 3.0km	■	■
羽沢池辺線	バイパス 3.2km	■	■
川崎町田線	現道拡幅 2.1km	■	■
上永谷線	バイパス 1.0km	■	■
横浜上麻生線	駅前広場 0.27ha	■	■
中田さちが丘線	バイパス 1.1km	完了	
権太坂和泉線	バイパス 4.1km	■	■
一般国道1号(不動坂工区)	現道拡幅 1.1km	■	■
(市)川井第44号線	橋梁整備	完了	
(市)北八朔北部第379号線	バイパス 0.2km	完了	
環状4号線(上瀬谷通信施設地区)	バイパス 0.5km	完了	
桂町戸塚遠藤線(1・2工区)	バイパス 0.7km	■	■

## 2 駅等へのアクセス向上

### (1) 現状・課題

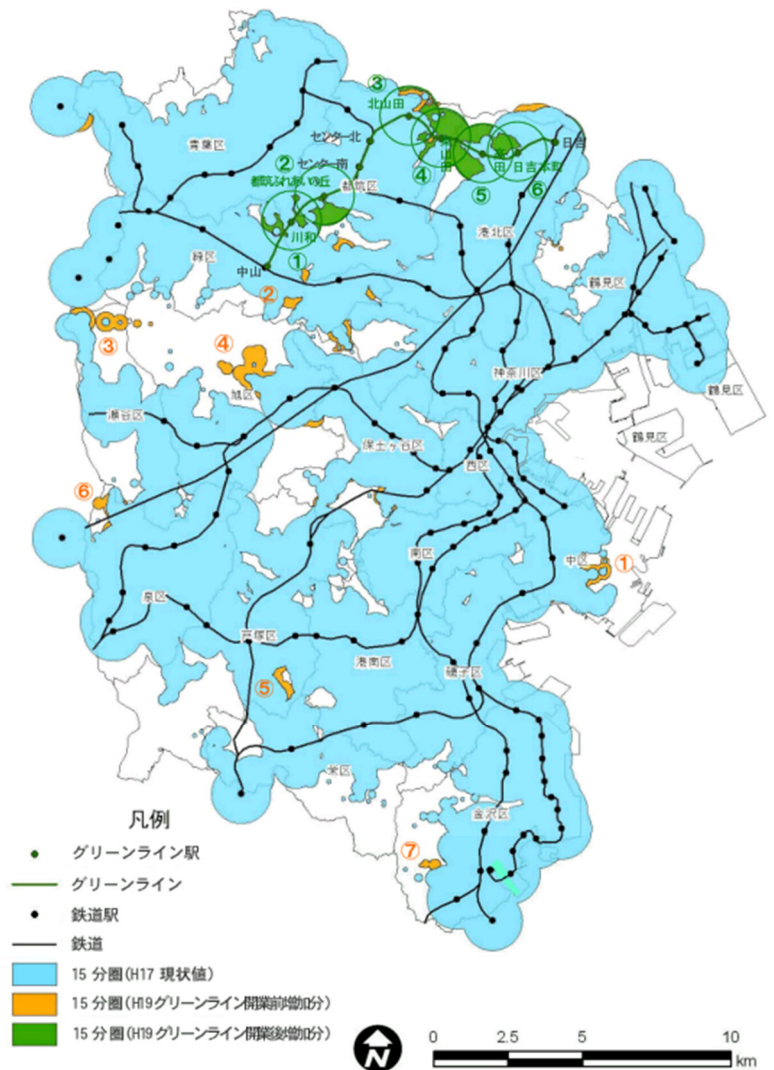
本市域内における高速道路・自動車専用道路網は近年飛躍的に充実し、平均旅行速度は大きく改善されました。

令和2年3月には横浜北西線が開通し、横浜北線と一体となり、東名高速から横浜港までが直結されました。

今後も横浜環状南線や横浜湘南道路が開通することで、東名や圏央道等、他の国幹道との連携がより強化され、更なる交通利便性の向上が見込まれます。

また、駅に至るバスルートとなっている道路を中心に、道路改良等の渋滞対策や、新交通システムを導入してきたことで、市内の大半（約9割）の地域が「最寄駅まで15分エリア」内に含まれ、一定程度の駅へのアクセス性は確保されました。

今後は、連続立体交差事業や新たな駅の設置、大規模改修による駅機能の強化と合わせ、駅へのアクセス性の更なる向上に取り組む必要があります。



### (2) 取組の方向性

連続立体交差事業や鉄道駅の新設・大規模改修事業に併せた駅アクセス道路等の整備により、地域連携の強化及び駅等への所要時間の短縮を図ります。

### (3) 成果目標

川崎市境から新横浜駅への所要時間の短縮  
(分)





(4) 事業

事業箇所	事業内容	事業実施期間	
		前期	後期
		R1~R5	R6~R10
大田神奈川線	バイパス 1.0km	完了	
川向線（川向地区）ほか1	バイパス 0.9km	完了	
星川停車場線ほか1	バイパス 0.6km	完了	
金沢シーサイドライン	新交通システム 0.3km	完了	
宮内新横浜線ほか1	バイパス 2.6km	完了	
東京丸子横浜線（綱島地区）	現道拡幅 1.0km	■	■
全体事業費 4,460 百万円、R6 年度完了予定			
恩田元石川線（鉄地区）	現道拡幅 1.2km	■	■
全体事業費 4,600 百万円、R12 年度完了予定			
新綱島駅周辺地区（（都）東京丸子横浜線ほか）	道路整備 0.6km	■	■
全体事業費 3,878 百万円、R8 年度完了予定			
恩田元石川線（元石川地区）	バイパス 0.4km	-	■
全体事業費 2,900 百万円、R12 年度完了予定			

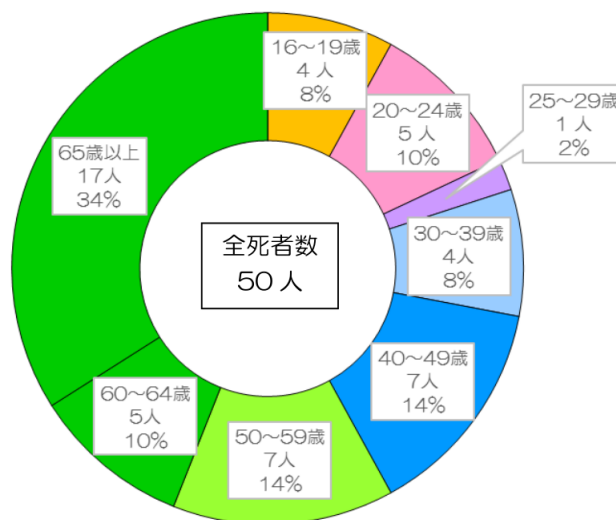
### 3 安全・安心なみちづくり

#### (1) 現状・課題

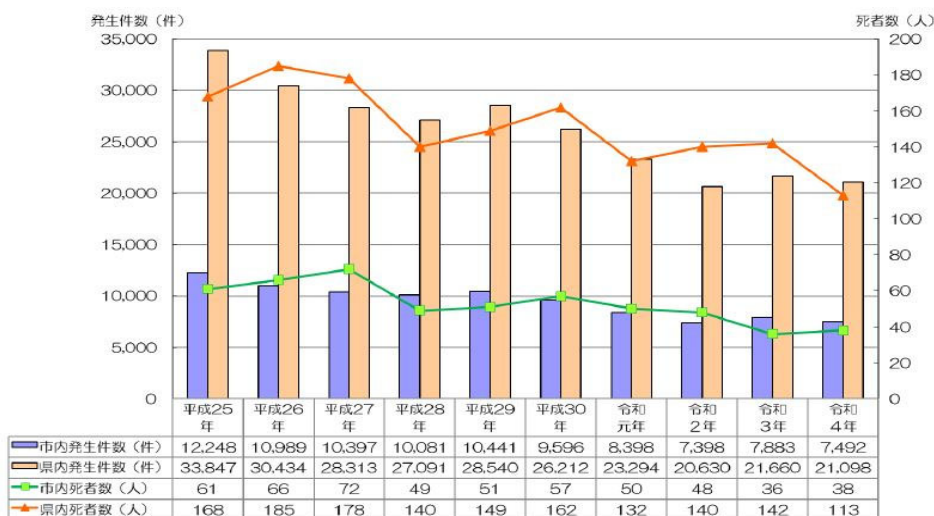
本市では2019年に人口のピークを迎え、今後ますます少子高齢化が進む中であって、高齢者人口及び高齢運転者は更に増加することが見込まれています。

一方で、交通事故死者数は増減を繰り返しながら、平成28年に過去最少の49人を記録したものの、その後、再び増加傾向にあります。死者の多くは歩行中の高齢者であることから、今後高齢化が急速に進むことも踏まえた早急な対策が重要となっています。

また、近年も、通学途中の児童が巻き込まれる死亡事故が依然として発生しているなど、特に、通学路、生活道路等において、歩行者の安全確保に資する施策を推進していかなければなりません。



出典：令和元年（2019年）横浜市内の交通事故統計



出典：令和4年（2022年）横浜市内の交通事故統計

#### (2) 取組の方向性

様々な施策を実行し、通学路をはじめとした生活道路における安全対策を進めることで、子どもや高齢者など誰もが安全・安心に利用できる道路空間を実現します。

#### (3) 成果目標

市内の交通事故における年間死者数 (人)



#### (4) 事業

事業箇所	事業内容	事業実施期間	
		前期	後期
		R1~R5	R6~R10
路面性状調査（市内一円）	路面性状調査	■	■
路面下空洞調査（県道・市道）	路面下空洞調査	■	■
道路標識点検	標識点検	■	■
市営駐車場修繕	施設修繕	完了	
(主)環状2号線ほか舗装修繕	舗装補修	完了	
(市)新吉田第303号線ほか	カラー舗装	■	
(主)横浜上麻生ほか（市が尾駅周辺地区）	歩道の段差解消	完了	
(市)小菅ヶ谷第425号線ほか（小菅ヶ谷地区）	歩道の段差解消	■	
(市)谷津第475号線ほか（金沢文庫・金沢八景駅周辺地区）	歩道の段差解消	完了	
(一)大田神奈川ほか（大口・子安駅周辺地区）	歩道の段差解消	完了	
(市)鶴ヶ峰天王町線ほか3路線	歩道整備	■	
(市)中田第355号線ほか	歩道整備	■	■
(市)保土ヶ谷駅浅間線第7140号線ほか	歩道整備	■	■
(市)天王町第12号線	歩道整備	■	
(市)戸塚第519号線ほか	歩道整備	■	■
(市)鶴見第76号線ほか	自転車通行帯	完了	
(主)横浜伊勢原ほか（その2）	自転車通行帯	完了	
(市)堀口第475号線（かたぶき人道橋）	立体横断施設整備	完了	
(市)山下町第39号線ほか30路線（市道）	照明灯建替	完了	
(一)瀬谷柏尾（岡津地区）	交差点改良	■	■
(主)鶴見駅三ツ沢線ほか34か所防護柵整備	防護柵整備	完了	
(市)峰沢第98号線ほか38か所	区画線整備	完了	
(市)大口第214号線ほか308か所	車止め設置等	完了	
道路標識修繕事業（片持式・その他）	標識修繕	■	■
みらい歩道橋昇降設備ほか23基	エレベーター修繕	■	■
(市)峰沢第62号線ほか	歩道整備	■	■
(市)戸塚第519号線（戸塚駅西口地下道）	カルバート補修	■	
(主)環状2号線（東川島地下道-1）ほか12か所	カルバート点検	■	■
(市)森第85号線ほか（杉田駅・新杉田駅・磯子駅・屏風浦駅・根岸駅周辺地区）	歩道整備	■	■
(市)中田第599号線ほか（踊場駅周辺地区）	歩道整備	■	■
(市)若葉台第26号線	カルバート修繕	■	

事業箇所	事業内容	事業実施期間	
		前期	後期
		R1~R5	R6~R10
(一)真光寺長津田（長津田地下道）	カルバート修繕	■	
(市)中田第 597 号線ほか（踊場駅周辺地区）	歩道整備	■	■
(市)山下町第 13 号線ほか（関内駅・桜木町駅・馬車道駅・日本大通り駅・伊勢佐木長者町駅周辺地区）	歩道整備	■	■
(市)十日市場第 56 号線（十日市場駅周辺地区）	歩道整備	■	
(市)大池第 348 号線（入之谷第 2 隧道）	カルバート修繕	■	
(市)保土ヶ谷二宮間線（元町橋）	橋梁架替(歩道整備)	■	
(市)山下長津田線ほか（長津田駅・中山駅・鴨居駅周辺地区）	歩道整備	■	■
(市)菊名第 10 号線ほか（大倉山駅・新横浜駅・小机駅周辺地区）	歩道整備	■	■
道路照明柱点検	照明柱点検	■	■
汐見台平戸線（大岡地区）	現道拡幅 0.3km	■	■
保土ヶ谷二俣川線	現道拡幅 0.4km	■	■
山下長津田線	バイパス 1.5km	■	■
桜木東戸塚線	バイパス 1.0km	■	■
横浜逗子線	バイパス 1.4km	■	■
瀬谷地内線	バイパス 0.3km	■	■
(市)上白根第 99 号線	現道拡幅 1.7km	■	■
(市)片倉六角橋線（神大寺地区）	歩道設置 0.7km	■	■
(市)平戸第 486 号線（別所地区）	歩道設置 0.6km	■	■
(主)横浜生田（柚の木交差点）	交差点改良	■	■
(一)阿久和鎌倉（萩丸交差点）	交差点改良	完了	
(市)川和第 170 号線ほか（山王前地区）	歩道整備 0.3km	■	■
(主)横浜上麻生（佐江戸その 2 地区）	交差点改良	■	■
(一)瀬谷柏尾（本郷その 2 地区）	歩道整備 0.3km	■	■
(市)宮沢第 306 号線（その 2）	歩道整備 0.6km	■	■
(市)川向第 39 号線	歩道設置	完了	
(市)和泉町第 449 号線	歩道整備 0.1km	■	
(市)和泉町第 449 号線（赤坂橋）（2）	橋梁架替(歩道整備)	■	■
一般国道 1 号（不動坂交差点）	立体横断施設	■	■
全体事業費 1,110 百万円、R6 年度完了予定			
(一)川崎町田（田奈地区）	現道拡幅 0.7km	■	■
(市)上飯田第 354 号線（中田北二丁目地区）	歩道整備 0.4km	■	■



事業箇所	事業内容	事業実施期間	
		前期	後期
		R1~R5	R6~R10
(市)笹下第 520 号線	歩道整備 0.1km	■	■
(主)環状 4 号線 (上飯田地区)	自転車通行帯	■	■
(市)新羽荏田線第 7008 号線	自転車通行帯	完了	
(市)東希望が丘第 198 号線 (二俣川駅周辺地区) (その 2)	歩道整備	完了	
(市)十日市場第 74 号線ほか (十日市場駅周辺地区)	歩道整備	完了	
(市)戸塚第 420 号線	歩道設置	完了	
(市)宮沢第 133 号線	歩道整備 0.3km	■	■
(市)北八朔北部第 184 号線	歩道設置	完了	
(一)県道大船停車場矢部 (戸塚駅東口駅前広場再整備)	施設整備	完了	
一般国道 1 号 (保土ヶ谷駅東口駅前広場再整備)	施設整備	完了	
(主)横浜伊勢原ほか (戸塚駅周辺地区)	自転車通行帯	■	■
(市)下末吉 348 号線ほか (鶴見駅周辺地区)	自転車通行帯	完了	
(市)上飯田第 315 号線ほか (いずみ中央駅・立場駅周辺地区) (その 2)	歩道整備	完了	
(市)中川第 235 号線ほか (タウンセンター地区) (その 2)	歩道整備	完了	
(市)下田第 97 号線 (下田五丁目地区)	歩道整備	完了	
(市)箕輪第 161 号線	歩道整備 0.3km	■	■
(市)平戸第 486 号線 (別所地区) (その 2)	歩道整備 0.5km	■	■
(一)大船停車場矢部 (長沼町地区)	歩道整備	完了	
(主)横浜上麻生 (小机駅周辺地区)	自転車通行帯	完了	
(市)上大岡第 149 号線ほか	歩道整備 0.3km	■	■
(一)川崎町田 (恩田地区)	バイパス整備 1.2km	■	■
全体事業費 5,396 百万円、R6 年度完了予定			
(一)大船駅県道横断歩道橋整備事業	立体横断施設	完了	
(市)奈良西八朔線第 7152 号線	自転車通行帯	完了	
(主)山下本牧磯子線 (本牧地区)	自転車通行帯	完了	
(主)環状 4 号線ほか (十日市場駅周辺地区)	歩道整備 1.2km	■	■
(市)新杉田第 73 号線ほか (杉田駅・新杉田駅周辺地区)	歩道整備	完了	
(市)小菅ヶ谷第 425 号線ほか (本郷台駅周辺地区)	歩道整備	完了	
(主)東京丸子横浜 (菊名四丁目交差点)	交差点改良	完了	
(市)箕輪第 266 号線ほか	カラー舗装	完了	
(市)上大岡第 301 号線	歩道整備	完了	
(市)三ツ沢第 25 号線	歩道整備	完了	

事業箇所	事業内容	事業実施期間	
		前期	後期
		R1~R5	R6~R10
(市)下瀬谷第 438 号線	歩道整備 0.1km	完了	
(市)蒔田第 480 号線	歩道整備 1.8km	■	■
(一)大船停車場矢部 (上倉田地区)	歩道整備 0.8km	■	■
(市)谷津第 232 号線	歩道整備 0.1km	■	■
(市)北山田第 362 号線外 (センター北駅前地区)	歩道整備 0.4km	■	■
(市)矢部第 281 号線	駅前広場整備	■	■
(市)大倉山第 160 号線	歩道整備 0.1km	■	■
(市)新羽第 287 号線	歩道整備 0.1km	■	■
(市)本牧第 112 号線	防護柵設置	完了	
(市)上大岡第 458 号線ほか	区画線設置	完了	
(市)山下町第 132 号線ほか	車止め設置	完了	
(主)原宿六ツ浦 (笠間交差点)	交差点改良	■	■
(一)川崎町田 (青砥地区)	現道拡幅 0.1km	■	■
(主)山下本牧磯子線 (本牧地区)	自転車通行帯	■	■
(市)中田さちが丘線 (中田地区)	自転車通行帯	■	■
(市)中山北山田線 (茅ヶ崎中央地区)	自転車通行帯	■	■
環状 3 号線 (中田地区)	バイパス 0.5km	■	■
(市)三ツ境下草柳線 (三ツ境駅北口歩道橋)	バリアフリー化	■	■
(市)都心臨海部	自転車通行空間整備	■	■
(市)泥亀釜利谷線ほか (金沢文庫駅周辺地区)	自転車通行空間整備	■	■
(主)環状 4 号線 (下瀬谷地区)	自転車通行空間整備	■	■
環状 3 号線 (日野南・小山台地区)	道路改築 (車線増)	完了	
(市)末吉橋第 315 号線	人道橋整備	■	■
全体事業費 1,670 百万円、R5 年度完了予定			
桂町戸塚遠藤線 (高島橋)	現道拡幅 (橋梁架替)	■	■
全体事業費 2,500 百万円、R6 年度完了予定			
鴨居上飯田線	バイパス 1.6km	■	■
全体事業費 22,720 百万円、R6 年度完了予定			
(市)環状 4 号線 (北町地区)	交差点改良	■	■
全体事業費 3,100 百万円、R8 年度完了予定			
(市)新治 134 号線	カルバート修繕		■
(市)北八朔南部 173 号線	カルバート修繕		■
矢向第二踏切ほか 11 箇所 踏切道誘導表示設置	バリアフリー化		■
ビッグデータ交通安全対策	通学路安全対策		■

## 国 国道の整備による交通環境の改善

### (1) 現状・課題

本市域には、国道1号をはじめ、複数の国道が縦横に走っており、道路ネットワークの骨格を形成しています。

一般国道1号、15号、16号、246号、357号が指定区間、一般国道1号の一部（西区浜松町交差点から戸塚区戸塚町大坂上の間）と一般国道133号（桜木町～山下町）が指定区間外となっています。

一方で、これらの路線には交通が集中し、多くの箇所で渋滞が生じています。

また、防災、景観、安全で快適な歩行空間の確保といった観点から、電線共同溝の整備による無電柱化が進められています。



出典：横浜国道事務所HP

### (2) 取組の方向性

我が国の国際競争力と成長を支える道路として、首都圏中央連絡自動車道（国道468号）の一部を形成する横浜環状南線、横浜湘南道路の整備のほか、東京湾岸諸都市を結び、産業・経済の発展を支える東京湾岸道路（国道357号）の整備が進められています。

また、一般国道においては、交差点改良等により、主要渋滞箇所の解消に向けた取り組みや、電線共同溝の整備による無電柱化も進められています。

### 国道16号 保土ヶ谷電線共同溝(横浜市)



出典：横浜国道事務所HP

### (3) 市域の主な国道事業

路線名	箇所名等	事業内容
国道 468 号	首都圏中央連絡自動車道（金沢～戸塚）	幹線道路ネットワーク整備
	首都圏中央連絡自動車道（横浜湘南道路）	
国道 357 号	東京湾岸道路（神奈川県区間）	
国道 246 号	都筑青葉地区環境整備	
国道 1 号	神奈川湘南 1 号環境対策	改築事業（防災対策等）
国道 16 号	神奈川 16 号環境対策	
国道 1 号	戸部地区	交通安全事業（Ⅰ種） （横断歩道橋整備、交差点改良等）
国道 15 号	幸ヶ谷横断歩道橋	
国道 16 号	屏風ヶ浦交差点	
国道 1 号	－	交通安全事業（Ⅱ種） （道路標識、区画線等）
国道 15 号	－	
国道 16 号	－	
国道 15 号	鶴見中央（2）	電線共同溝事業
国道 16 号	富岡東	
国道 246 号	目黒	



## 横浜市道路整備プログラム 2019—2028

2024（令和6）年3月改定

横浜市 道路局 計画調整部 事業推進課

〒231-0005 横浜市中区6丁目50番地の10

TEL 045-671-3533